

第 84 回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

經濟産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和 4 年 7 月 2 8 日

今回のTMBに関して

- 1 皆様におかれましては、いつも標準化活動にご協力いただきありがとうございます。
- 1 今回のTMB会合は2年4ヶ月弱振りに、ジュネーブにおいて対面で開催されました。
- 1 6月の事務局長報告にありますように、対面・ハイブリッド・オンライン会議の開催は委員会が決定できることが会長委員会で承認されております。
- 1 SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンス（欄外URL参照）をご活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- 1 なお、今回調査結果もありましたが、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料の決議は簡易版ですので、正式なものは英語版でご確認ください。

1. 任務

I ISO規格作成に関する管理事務的事項

ü TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、
ISO/IEC専門業務指針の改訂等

I ISO規格作成に関する戦略的事項

ü 規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの
審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

2. メンバー（出席者）

- I TMB議長: Ms. Sauw Kook Choy（シンガポール）
- I TMBメンバー（15名）: Mr. Steven Cornish（米）, Ms. Amanda Richardson（英）, Ms. Petra Scharf（独）, Mr Franck Lebeugle（仏）, Ms. Atsuko Saruhashi（日）, Ms. Karen Batt（豪）, Mr. Anton Shalaev（露）<WEB>, Mr. Marcel Knecht（スイス）, Ms. Merete Holmen Murvold（ノルウェー）, Mr. Nelson Al Assal Filho（伯）, Dr. Mkabi Walcott（加）, Mr Roy Chowdhury（印）, Mr Cristian Vazquez（亜）, Mr Hussalmizzar Hussain（馬）<WEB>, Ms Yubing Li（中）<WEB>
- I ISO中央事務局：
Mr Marco Rossi（新部門長）, Mr. Antoine Morin TMB事務局長代理、ほか数名
- I オブザーバー：今回はSMBと同時開催のため、SMBはなし。



【決議 50/2022】重要鉱物に関する戦略諮問グループ（SAG）の報告

<背景>

中国提案のTC 333（リチウム）の際に、金属や鉱物ごとにTCが乱立、金属に共通する議論が個別で実施、一部の国のみに参加が偏るといった懸念が表明された。そのような背景をもとに、豪（SA）を中心にStrategic Advisory Group(SAG)の設立提案が提出され、2021年3月設立が決定したものの。

<審議内容>

1 提案内容が、諮問グループから常設のグループに見えるということが議論の中心。SAGとしては常設化は求めておらず、諮問のみを行うことで決議。

<結果> 決議番号：50/2022

1 SAGの任務、成果及びメンバーシップ（変更なし）を示し、業務をさらに1年間延長することを決定し、2023年6月に報告書提出を予定。

<任務> 新規格が業務範囲の拡大の有無を含め既存TCで開発が可能か、新TCの設置の必要性の調査、化学分析方法など横断的に影響のある規格開発に関するガイダンス文書の開発の必要性の有無などを行い、TMBへの推奨事項を作成する。

<成果> 市場ニーズなどに基づいた新規標準化の優先リスト、重要鉱物に関連する持続可能性規格に関する成果書、重複する可能性のある規格/プロジェクト/委員会に関する半年ごとの報告。

<任期> 12か月

【決議 51/2022】ジェンダー対応規格に関する合同戦略諮問グループ (JSAG)

< 背景 >

2020年設置の合同戦略諮問グループの最終報告の改正案が提出された。

< 審議内容 >

- I IEC/SMBも改正ガイダンス文書で承認したものの、引き続きジェンダーフォーカルポイント@TCSCレベルの検討をすべきという指摘あり。
- I他にも用語など必要に応じてJDMTなどで検討することが議論。議論のスピードアップも求められたものの、オンライン会議では時間不足であることなどが指摘。

< 結果 > 決議番号 51/2022

- Iジェンダー対応規格に関するガイダンスの改定に留意し、TC/SC等へ配布することを承認。

【決議 52/2022】ISO/TC 274(光と照明)及び ISO/TC 205 (建築環境設計) のTMBへの上申 - JWG設立

<背景>

2つTCにおいてスコープが重複している案件があり、2者での調整が困難。ISO/TC 205が主導してJWGを設置するか、リエゾンのみ継続するもののISO/TC 274のスコープから屋内視環境を削除するかの判断。

<審議内容>

- 1 どちらかのTCの案のみを採用することで、解決を勝負にすべきではない。
- 1 後から設立されたTCが、重複が考えられる案件を全く議論できないのはどうか。
- 1 JWGにするのであればTC274がリードを取り過ぎないように、各TCの専門家数や参加国を同数とし、バランスのとれた体制が条件。CIEをTCと同列に考えない。

<結果>決議番号 52/2022

- 1 屋内視環境のJWGを設立し新規格を開発し、必要に応じて既存規格を改訂。
- 1 TC 205がJWGをリードし、各TCから1名ずつ代表する2名の共同コンビーナ
- 1 各TCバランスの取れた数のP-メンバーによって、代表するP-メンバー、リエゾン機関が指名する限定された数の専門家（最大3人）をJWGの代表とする。

【決議 53/2022】ISO/TC 67の名称及び業務範囲の変更

<背景>

TC 67（石油，石油化学及び天然ガス工業用材料及び装置）が、最近の低炭素エネルギーや新SC（CCS）に対応するため、名称と業務範囲の変更を依頼。

<審議内容>

- 1 スコープの範囲に低炭素やゼロ炭素が含むのか不明だったことの確認や、否決した意見のコメントの取り扱いなどが議論された。
- 1 エネルギーというタイトルがカバーする範囲がわかりにくかったが、TC 67は燃料を扱っておらず、燃料自体はTC 28（石油製品）やTC 193（天然ガス）。Equipmentが対象。

<結果>決議番号 53/2022

- 1 ISO/TC 67の名称及び業務範囲の変更を承認。
- 1 変更後の名称：低炭素エネルギーを含む石油及びガス産業
- 1 変更後の業務範囲：省略

【決議 54/2022】ISO/TC 158 ガス分析 の再割り当て

< 背景 >

TC 158（ガス分析）の国際幹事のオランダ（NEN）が辞退することになり、中国とロシアが引き受けを希望したが、TMBメンバーから現状ロシアが引き受けても業務遂行ができないことから、この投票自体を延期すべきではないかという決議延期が行われていたもの。

< 審議内容 >

- 1 国際幹事に指名されても活動を停止されてしまう状況下での決定は適切か。現状を踏まえると現時点で国際幹事指名を行うのは不適切ではないか。
- 1 国際的な情勢は理解しつつ、ISOが国際的な組織であることを考えると、候補国を、中立的に平等な視点で技術的な指標でのみ評価・判断し、決定すべき。
- 1 ロシアはISO/IEC両中央事務局と相談し、標準化活動が遅延しない最適な方法（ISOでは会議を開催しない、IECではリーダーの代理を立てる）を決定。活動・進捗は監視し、規格開発への大きな影響はない。
- 1 国際幹事の候補もぜひ技術的な指標で判断してもらいたい。

< 結果 > 決議番号 54/2022

- 1 幹事国をSAC（中国）に再割り当てする。

【決議 55/2022】熱供給ネットワークに関する新TCの設置

<背景>

2022年3月TMB会合において、TMBメンバーから指摘された事項を提案者が再検討し、再提出してきたもの。

<審議内容>

- Ⅰ 除外するものが多くなりが残り、どのような規格を開発するのかわかりにくい。
- Ⅰ TC301との関係は解決したが、この分野で使うパイプ（プラスチックのみならず鉄鋼）を提案者に再検討してもらおうよう伝えてほしい。前向きに対応。

<結果> 決議番号：55/2022

- Ⅰ 熱供給ネットワークに関するISO/TC 341 を新しく設置することを決定。
 - Ⅰ 暖房及び冷房供給パイプラインシステムに基づく設計，建設，統合，制御及び規制を含む，HSNの分野における標準化。
 - Ⅰ 除外事項：ISO/TC 11 ボイラ及び圧力容器，ISO/TC 86 冷凍技術及び空気調和技術，ISO/TC 163 建築環境における熱的性能とエネルギー使用，ISO/TC 138 流体輸送用プラスチック管，継手及びバルブ類，ISO/TC 205 建築環境設計，ISO/TC 267 ファシリティマネジメント，ISO/TC 268 持続可能な都市とコミュニティ，ISO/TC 301 エネルギーマネジメント及び省エネルギー量，及び IEC SyC スマートシティ，IEC SyC スマートエネルギー で対象となっている熱源及び暖房システムの標準化。
- Ⅰ 幹事国をSAC（中国）に割り当てる。

【決議 56/2022】包括的用語に関するガイダンス

<背景>

ISO/IEC Directives Part2において、ISO/IEC 文書において可能な限り包括的な用語の使用を求めているが、以下のような問題点がある。

- 性別のある代名詞や単語（“he”, “policeman”など）の不用意な使用。意図せずに規格の範囲を限定してしまうが、対処は容易。
- 名詞に性別がある言語（フランス語など）で男性形と女性形を使用すること。
- 歴史的に定着しているが、攻撃的・非包括的な用語（例えば、“master/slave”, “blacklist”）の使用は（少なくとも TC レベルで）全体的なアプローチが必要。

どのように対処するのが最適かを議論し、包括的な用語の原則に従いながらうまく作業できるようにするためには、ガイダンス文書、用語集、ガイダンス又はヘルプデスクサービスが必要。

IECと共同作業を開始するため、協調的かつ全体的なアプローチを確保する目的で、JWGの設置を承認することが提案された。

【決議 56 / 2022】包括的用語に関するガイダンス

< 審議内容 >

- 1 TC37(言語及び専門用語)だけの問題ではなく、ほかにも適切な委員会がある。
- 1 例えばTC 283(労働安全衛生)、TC 260(人的資源管理)、TC 314(高齢社会)、PC 337(ジェンダーガイドライン)、JTC1、JSAGジェンダーなどのメンバーを中心に、他にも声をかけるべき。TC 145(図記号)も念頭に入れるべき。
- 1 既存の規格類への影響：基本、ガイダンス文書は要求事項ではない。リソースに限りもあるので、まずは将来の規格に適応できるようなものを作成すべき。既存規格の見直しは、定期見直し(SR)の際に見直してはどうか。
- 1 英語・フランス語が母国語の職員を入れるべき。公式言語の仏・露の参加により、負荷が増えすぎて作業が進まないということのないことを期待。

< 結 果 > 決議番号：56 / 2022

- 1 SMBと合同のJWGを設置し、包括的用語に関するガイダンス文書と非推奨語と適切な代替語のリストの開発。
 - 1 JWGリーダー：TMB 及び IEC/TC 1 により指名。ISO/IEC中央事務局の職員によって支持。
 - 1 JWGメンバーシップ (ISOの場合：ISO/TC 37 , ISO/TC 145 , ISO/TC 260 , ISO/TC 283 , ISO/TC 314 , ISO/PC 337 及び ISO/IEC JTC 1 を含む関心のある委員会の専門家)
- 1 2023年6月のISO/IEC JDMT への推奨事項を含む最終報告を提出を求める。

【決議 57/2022】ISO補足指針 2.1.6.2(6か月の取消し猶予)の廃止について(猶予期間終了)

<背景>

2019年12月のDMTにおいて、取り消すことが決定されていた6ヶ月取り消し猶予期間であるが、コロナ禍で廃止に猶予が与えられていたもの。既に対面会合も実施できるため、来年発行予定のDirectivesから削除すべきという提案。

<審議内容>

- 1 廃止することは了解するものの、ただ執行と記載するのではなく、どの時点、Directives から適応されるか、明示すべき。

<結果> 決議番号：57/2022

- 1 DMT推奨事項 01/2019 で提案され、2月の会議で[TMB決議 27/2020](#) によって承認されたが、[TMB決議 30/2020](#) によって保留されていた、ISO補足指針 箇条 2.1.6.2への変更を実装することを決定し：

DIS **登録期限** (段階40.00) 又は発行**期限** (段階60.60) の期限を過ぎている場合に**至る前に**、委員会は6か月以内に以下の行動のうちいずれか一つを採用することを決定しなければならない：

~~6か月たっても**期限を過ぎても**上記アクションのいずれも取られない場合、プロジェクトはISO 中央事務局によって**自動的に**取り消されなければならない。そのように取り消されたプロジェクトは、ISO/TMB の承認を得た場合のみ復活させてもよい。~~

- 1 2023年5月に発行及び実装されるISO補足指針でこれらの変更の記載する。

【決議 58/2022】量子技術

<背景>

2022年2月TMB会合において、IEC/SEG(量子技術)はIEC/ISOの共通項目であるため合同で議論をすべきと提案。SMBはISOの参加を歓迎するが、ISOにSEGがないことから合同組織の設置が否決されたことへの対応。

<審議内容>

- 参加人数は多いがIEC/SEGとISO/SAGは大きく異ならず、SEGは報告書の作成とSMBへ報告が目的。
- 近い案件の場合は、事務局経由でお互いに情報を共有することが重要。
- 投票結果が2/3に届かなかったのは残念。SEGのコンセプトには賛成し、戦うような行動ではなく、前向きな回答・決議を準備し、ISOの専門家をたくさん出すような手段を考えたい。例えば、一定期間後、合同にすべきか見直すなど。
- SAG・SEGも、提案後、SPCGに配布し議論すべき。
- 量子技術は、専門家は多くなく、ISO/IECの評判にも影響。緊急性のある産業・分野でこのような議論は不毛。開始することが重要。
- 専門家は、ISOかIECではなく、標準化の世界で対応しており、欧州ではCENCLCの合同のグループで対応。合同グループで十分。標準化がISOでもIECでもなく進むことが問題。
- 合同SAG/SEGではなくSEG設置でよい。TMBがいいと言えばJDMTにかける必要もない。
- SEGがベストではあるが、将来、共通事項ができたらどうするかを考えて合同会議で議論が必要。

<結果> 決議番号：58/2022

- SMBの否決に留意し、将来の合同標準化評価グループ（SEG）の設立を承認し、継続議論。

SMB / TMB 合同会議

6月15日（水）9:30～17:00@ジュネーブ

- Ⅰ SMB/TMBで合計40名弱がハイブリッドで参加
- Ⅰ 対面は2019年夏の第一回以来（リモートでは2021年に開催）
- Ⅰ 日本からは、対面で江崎SMB委員、猿橋、リモートで新地（SMBオルタネート）が参加

1. 前回SMB/TMB合同会合以降のアップデート

1. 新しいツールの開発（OSD、SMART規格）は合同で実施。
2. JTF JTC 1の報告と管理
3. JTF NN
4. JTF Horizontal
5. JTF Risk associated terminology
6. JTF 戦略パートナーシップ
7. JTAGの考え方について
8. Joint SAG/SEGについて

2. 今後に向けた戦略的な活動に関するWS

現在行っている協働プロジェクト（SMART規格、SPCG、JDMTなど）や今後もっと行うべきプロジェクト（将来のJTCなど）が、6つにグループ分けされたSMB/TMBで議論された。

WS中にグループから指摘された優先課題

- | 将来の合同専門委員会（JTC）について（現在のJTC1ではなく…）。
- | 新しいJTCのあり方や、両組織による運営管理手段の開発
- | 市場ニーズや将来の活動のためのフレームワーク（IEC/MSBとISO/Foresight活動）における共通分野、協働領域における両組織の協力 < JTC、SAGs、SEG >。
- | SMARTに関連するものは何でも合同！
- | 業務指針（Directives）の内容の統一化（Supplementの減）。
- | 共通項目（気候変動、SDGs）
- | 共通案件の議決方法
- | SPCGのスキープの拡大
- | 標準化のプロセスの中のデジタル化
- | 縦断的事項： リスク

< 優先事項 > 将来のJTCについて、Directivesの統一化、MSBとForesightでの合同プロジェクト探し、SPCG業務拡大、新しい項目（気候変動、SDGs）

通信投票の決議

【決議 49/2022】戦略的パートナーシップに関する ISO/IEC 合同タスクフォース（JTF）

<背景>

SMBと協働して標準化活動を進めるため、合同タスクフォースが昨年設置され、SMBとTMBから地域バランス等を鑑みたメンバーが参加し、報告書、推奨事項が開発された。

<結果> 決議番号：49/2022

- Ⅰ 戦略的パートナーシップに関する ISO/IEC 合同タスクフォース の報告とそこに含まれる推奨事項を承認。
- Ⅰ SMBとTMBの協働原則を設定し、協働の領域を特定し。コミュニケーションと手順を改善するための議論を行い、以下を決定。
 - Ⅰ SMB/TMB 協働原則
 - Ⅰ 合同会議のための SMB/TMB 意思決定プロセスと運用手順
 - Ⅰ 共同 SMB/TMB グループの運営手順（テンプレートを含む）
 - Ⅰ SMB/TMB 共同リポジトリとその継続的な更新
- Ⅰ SMBとTMBは、毎年6月の対面会議でJTFの業務の結果を定期的に見直し、2024年6月に最初の見直しを行うことに合意。

報告・討議事項 (決議なし)

参考 (ご紹介)

SPCG (Standardization Programme Coordination Group) について

- I SPCGとは
- I 12月にWSを開催予定（ハイブリッド。対面はウィーンを予定）

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC（SG）設置の回避や、3機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。（日本からは、当初よりTMB委員が参加。）

新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応

既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応

SPCGの責任外の問題（著作権、有償無償問題など）は適宜関連部署へ

SPCGは決定機関（Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG）に報告

SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付（著作権等の遵守は必須）

3組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成（Landscape文書）

どのように広報中？



右のイメージに到達したら、下にスクロール！

SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:

- Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
- Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
- Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMS, TSAG);

Official documents and operational information

SPCG Membership [Download](#)

SPCG terms of reference [Download](#)

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields) [Download](#)

SPCG Key performance indicators [Download](#)

SPCG Effective Coordination Paper [Download](#)

SPCG AI/ML landscape [Download](#)

ランドスケープ文書！

Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields

Status: 6 December 2023

Field	ISO TCs ¹	IEC TCs ¹	JTC 1/SCs ¹	ITU-T SGs ¹ , FGs	Dedicated and other related Coordination
	TMB	SMB	SMB & TMB	TSAG	• IEC/SMB/ISO/TMB/ITU-T/TSAG Standards/telecommunication Standards Programme Coordination Group (SPCG) • World Standards Cooperation (WSC) • Global Standards Collaboration (GSC)
Access Networks, Transport Networks, Optical Networks	• ISO/TC 204 Intelligent transport systems	• IEC/TC 86 • IEC/TC 100 • IEC/SyC Communication Technologies & Architectures	• JTC 1/SC 6	• ITU-T SG15 • ITU-T SG8	• ITU/WMO/UNESCO/JCC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning
Accessibility, Human Factors, User Interfaces	• ISO/TC 97 • ISO/TC 119 • ISO/TC 173 • ISO/TC 314		• JTC 1/SC 35	• ITU-T SG2 • ITU-T SG9 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	• Joint Coordination Activity on Accessibility and Human Factors (JCA-AHF)
Active Assisted Living	• ISO/TC 314	• IEC/SyC Active Assisted Living • IEC/TC 64 • IEC/TC 61		• ITU-T SG16	
Agriculture, smart farming	• ISO/TMB/SAG on Smart Farming • ISO/TC 23	• IEC/SMB SEG on Biobigital Convergence	• JTC 1/SC 41 • JTC 1/SC 42	• ITU-T SG5 • ITU-T SG13 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	

ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

<事務局長からの連絡>

- I ロシア主導で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

<ロシア主導が以下の場合>

I CM（委員会マネジャー）

- 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
- ロシアの主導ではないWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。

I 議長

1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可
3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。

I コンビーナ

1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
 - § 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応 または、
 - § WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

表彰制度の活用

- | ローレンス D アイカー賞
- | 次世代賞
- | ISO優秀賞
- | 産業標準化事業表彰

参考 <https://www.iso.org/iso-awards.html>

- | ローレンス D アイカー賞： 優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。
- | 次世代賞： 18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。
- | ISO優秀賞： 前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。
- | 産業標準化事業表彰

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/R04hyosho.html>

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>